

2026年度 第3回 WEBアンケート 調査報告書

1 「身近な水環境・生物多様性の保全」

環境局環境保全課

2 「路線バス」

都市局交通政策課

3 「次期千葉市農業基本計画」

経済農政局農政課

4 「認知症への理解及び認知症施策」

保健福祉局地域包括ケア推進課

総合政策局市長公室広報広聴課

目 次

WEBアンケート調査結果

	ページ
・ 概要	 1
・ 「身近な水環境・生物多様性の保全」	 2
・ 「路線バス」	 4
・ 「次期千葉市農業基本計画」	 6
・ 「認知症への理解及び認知症施策」	 8
・ その他	 10

回答者属性

回 答 者 数	1,563 人
---------	---------

性 別		
男性	678人	43.4%
女性	823人	52.7%
その他	13人	0.8%
未回答	49人	3.1%

職 業		
会社員	457人	29.2%
自営・自由業	60人	3.8%
パート・アルバイト	308人	19.7%
公務員	71人	4.5%
学生	44人	2.8%
専業主婦・主夫	277人	17.7%
無職	312人	20.0%
その他	34人	2.2%

年 代		
10代以下	21人	1.3%
20代	65人	4.2%
30代	125人	8.0%
40代	200人	12.8%
50代	397人	25.4%
60代	417人	26.7%
70代以上	338人	21.6%

居 住 区		
中央区	292人	18.7%
花見川区	238人	15.2%
稲毛区	247人	15.8%
若葉区	147人	9.4%
緑区	189人	12.1%
美浜区	410人	26.2%
市内在勤・在学	40人	2.6%

2026年度 第3回

調査名	「身近な水環境・生物多様性の保全」「路線バス」「次期千葉市農業基本計画」「認知症への理解及び認知症施策」
調査期間	令和8年6月1日(月)午前9時～同月10日(水)午後5時

概要:	1 「身近な水環境・生物多様性の保全」 身近な水環境(※1)や、生物多様性(※2)に対する意識や考え方等をお聞かせいただき、「千葉市水環境・生物多様性保全計画」の進捗状況を把握する指標の一つとして活用させていただきます。 ※1 水量・水質・水生生物・水辺地などの要素から構成されている環境の状態。河川や海、谷津田(※3)など。 ※2 全ての生物の間に違いがあること。具体的には次の3つのレベルがある。 ①生態系の多様性: 森林や谷津田、河川などいろいろなタイプの生態系が存在すること。 ②種の多様性: 人も含め、動物や植物など色々な生き物(種)が生息・生育していること。 ③遺伝子の多様性: 同じ種でも異なる遺伝子を持っていて姿や形などが異なっていること。 ※3 台地・丘陵地との間の浅い谷で、湧水を利用して営まれる水田のこと。 2 「路線バス」 日常的な外出時の交通手段としての路線バス(若葉区泉地域コミュニティバス、若葉区大宮台地域コミュニティバスを含む)の利用状況についてお聞かせください。 3 「次期千葉市農業基本計画」 次期千葉市農業基本計画策定にあたり、消費者としての視点やご意見をお聞かせいただき、取り組むべき課題や施策を打ち出すための参考とさせていただきます。 4 「認知症への理解及び認知症施策」 令和6年1月施行の認知症基本法に基づき、本市における「認知症施策推進計画」を策定するに当たり、認知症に対する知識や認知症関連施策についてご意見をお聞かせいただき、今後の参考とさせていただきます。
-----	---

参考URL	https://www.city.chiba.jp/kankyo/kankyohozen/hozen/mizu_seibututayousei_keikaku.html https://www.city.chiba.jp/toshi/toshi/kotsu/bus-traffic1.html https://www.city.chiba.jp/business/shigoto/noringyo/shisaku/kihonkekaku/index.html https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/koreishogai/korei/documents/dai9ki-kaigohoken-jigyokeikaku.pdf
-------	--

- Q1: はじめに、身近な水環境・生物多様性の保全についてお聞きします。
「水環境」は、「水量」、「水質」、「水生生物」、「水辺」といった水に関わる要素によって構成されています。
「水環境」という言葉の意味を知っていましたか。

(いくつでも)(入力必須)	[n=1563]	
知っていた(河川や地下水などの「水量」であることを知っていた)	319	20.4%
知っていた(河川や海などの「水質」であることを知っていた)	483	30.9%
知っていた(河川や海などにすむ「水生生物」であることを知っていた)	383	24.5%
知っていた(河川や海、谷津田などの「水辺地」であることを知っていた)	324	20.7%
知っていた(言葉のみ知っていたが、意味は知らなかった)	366	23.4%
知らなかった	537	34.4%

- Q2: 本市で身近に感じる「水環境」(河川や海、谷津田など)は何ですか。

(いくつでも)(入力必須)	[n=1563]	
生実川	124	7.9%
鹿島川	43	2.8%
勝田川	26	1.7%
草野水路	186	11.9%
坂月川	110	7.0%
支川都川	94	6.0%
花見川	787	50.4%
浜田川	139	8.9%
浜野川	58	3.7%
都川	412	26.4%
村田川	176	11.3%
葭川	181	11.6%
いなげの浜	815	52.1%
検見川の浜	554	35.4%
蘇我地区の海辺	172	11.0%
千葉港	659	42.2%
幕張の浜	614	39.3%
湧き水	35	2.2%
谷津田	157	10.0%
公園の池や水路	252	16.1%
その他	11	0.7%
特になし	102	6.5%

- Q3: 次の画像をご覧ください。これは「水循環(※4)」のイメージ画像です。水環境を保全していくことは、水循環の維持や回復につながりますが、「水循環」という言葉の意味を知っていましたか。
※4 地表、海面から蒸発した水蒸気が、上空で雲となり、雨となって地表に降り注ぎ、地表にしみ込んで地下水となったり、川を流れて海に至るといったような、水の一連のサイクルのこと。



(1つだけ)(入力必須)	[n=1563]	
知っていた(言葉も意味も知っていた)	703	45.0%
知っていた(言葉のみ知っていた)	395	25.3%
知らなかった	465	29.8%

- Q4: 水は、生き物の生息・生育には欠かせない生命の源であり、「生物多様性」とも関わりの深いものですが、「生物多様性」という言葉の意味を知っていましたか。

(いくつでも)(入力必須)

[n=1563]

知っていた(生態系の多様性であることを知っていた)	736	47.1%
知っていた(種の多様性であることを知っていた)	398	25.5%
知っていた(遺伝子の多様性であることを知っていた)	171	10.9%
知っていた(言葉のみ知っているが、意味は知らなかった)	365	23.4%
知らなかった	367	23.5%

- Q5: 次の取組みは生物多様性を守ることにつながりますが、現在あなたが実践している取組みを教えてください。

(いくつでも)(入力必須)

[n=1563]

地産地消を心がけ、地域の食材や旬のものを選んで食べている	811	51.9%
自然観察会などのイベントや動物園・植物園などで、自然や生き物にふれあっている	248	15.9%
生き物や自然、人や文化とのつながりを守るため、地域や全国の活動に参加している	82	5.2%
エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで買っている	477	30.5%
自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えている	161	10.3%
その他	48	3.1%
特になし	450	28.8%

- Q6: 水環境や生物多様性に関する問題で、気になることは何ですか。

(いくつでも)(入力必須)

[n=1563]

雨の時に道路冠水や、宅地に大きな水たまりができる	688	44.0%
河川が汚れている	753	48.2%
海が汚れている	542	34.7%
地下水・湧水が汚れている	134	8.6%
地下水・湧水の量が少ない	106	6.8%
水辺に親しむことができる機会・場所が少ない	325	20.8%
水環境に関する情報・知る機会が少ない	272	17.4%
森林伐採や水辺の埋立により、生き物のすみかが減っている	402	25.7%
野生生物の乱獲等により、生き物が減っている	127	8.1%
廃棄物や有害物質による、水や空気・土壌の汚染	566	36.2%
外来生物の増加	684	43.8%
里山・谷津田・樹林などの管理不足、耕作放棄地の増加	317	20.3%
地球温暖化による、生き物の生息・生育環境の悪化	617	39.5%
生物多様性に親しむことができる機会・場所が少ない	199	12.7%
生物多様性に関する情報・知る機会が少ない	189	12.1%
特になし	86	5.5%

- Q7: 千葉市では、水環境や生物多様性を守る取組みとして、次のことを市民協働で行っています。現在あなたが参加している、または今後参加してみたいと思う取組みを教えてください。

[選択肢補足]

※5 身の回りの生き物をスマートフォンで撮影し、スマホアプリ「Biome」に投稿。

※6 河川又は海域における生き物調査や水質調査、環境美化などの活動を実施。

※7 絶滅危惧種である市の鳥コアジサシを保護するため、検見川の浜において、砂れき地の清掃や草刈りなどの管理やロープ柵設置などを行っている。

(いくつでも)(入力必須)

[n=1563]

谷津田の自然環境の保全活動(田んぼづくりや森林整備)	144	9.2%
谷津田の生き物調査(動植物、鳥類やホタルなど)	209	13.4%
谷津田での自然観察会	249	15.9%
谷津田ボランティアの養成講座	57	3.6%
スマートフォンを活用した身近な生き物調査(※5)	327	20.9%
水辺サポーター活動(※6)	139	8.9%
市の鳥コアジサシ営巣地の整備(※7)	138	8.8%
特になし	818	52.3%

Q8: 次に、路線バスについてお聞きます。
この1年間で路線バスを利用しましたか。

(1つだけ)(入力必須) [n=1563]		
利用した	1,061	67.9%
利用していない →Q13へ	502	32.1%

Q9: (Q8で「利用した」と回答した方)
路線バスを利用した主な目的・用途は何ですか。

(1つだけ)(入力必須) [n=1061]		
通勤	219	20.6%
通学	19	1.8%
買い物	216	20.4%
通院	160	15.1%
レジャー・遊び・観光	385	36.3%
その他()※30字以内	62	5.8%

Q10: (Q8で「利用した」と回答した方)
路線バスを利用した頻度はどのくらいですか。

(1つだけ)(入力必須) [n=1061]		
ほぼ毎日	65	6.1%
1週間に3～4回	69	6.5%
1週間に1～2回	107	10.1%
月に1～2回	303	28.6%
年に数回程度	423	39.9%
不定期 ※雨の日だけ利用する	57	5.4%
不定期 ※天候の理由以外()※30字以内	37	3.5%

Q11: (Q8で「利用した」と回答した方)
市内の路線バスの満足度について、あてはまるものを選択してください。

(1つだけ)(入力必須) [n=1061]		
満足	196	18.5%
やや満足	417	39.3%
やや不満	293	27.6%
不満	125	11.8%
わからない	30	2.8%

Q12: Q11の回答の主な理由として、あてはまるものを選択してください。

(3つまで)(入力必須) [n=1061]		
便数(本数、運行経路)が多い(少ない)	631	59.5%
始発便が早い(遅い)、最終便が遅い(早い)	154	14.5%
乗り継ぎが便利(不便)	112	10.6%
乗り場案内がわかりやすい(わかりにくい)	99	9.3%
混雑していない(混雑している)	141	13.3%
定刻どおりに発着する(しない)	256	24.1%
自宅近くにバス停がある(ない)	306	28.8%
行先の近くにバス停がある(ない)	129	12.2%
バリアフリー化が充実している(いない)	30	2.8%
料金が安い(高い)	145	13.7%
特になし	49	4.6%

Q13: (Q8で「利用していない」と回答した方)
路線バスを利用しなかった理由について、あてはまるものを選択してください。

(2つまで)(入力必須) [n=502]		
自家用車を運転する	256	51.0%
家族等が送迎する	54	10.8%
バス停までが遠い	21	4.2%
乗りたい時間にバスが運行していない	60	12.0%
行きたい場所へ行くバスがない	88	17.5%
運賃が高い	77	15.3%
運行時刻がわからない	17	3.4%
乗り方や行き先がわからない	21	4.2%
その他()※30字以内	71	14.1%

Q14: 路線バスの認知度向上や身近に感じてもらうためには、どのような取組みが効果的だと思いますか。あてはまるものを選択して下さい。

(2つまで)(入力必須)

[n=1563]

バス車両を活用したバスの乗り方教室などの開催	129	8.3%
学識経験者を講師としたセミナーなどの開催	25	1.6%
バスに乗りながら路線バスについて学ぶバスツアーなどの開催	355	22.7%
運転手なりきり体験やバスのお仕事体験などの開催	196	12.5%
バス会社や千葉市のホームページなどでのPRの充実	473	30.3%
地域へのバスに関するチラシの配布(回覧)	306	19.6%
学校や企業へのバスに関するチラシの配布	99	6.3%
地域住民への出前講座の開催	35	2.2%
その他()※30字以内	132	8.4%
特にない	359	23.0%

- Q15: 次に、次期千葉市農業基本計画についてお聞きます。
日常生活の中で、どのような場面で農業に関わる機会がありますか。
【選択肢補足】
※8 市民が割り当てられた区画を利用して行う家庭菜園

(3つまで)(入力必須)	[n=1563]	
家庭菜園	420	26.9%
市民農園(※8)	97	6.2%
観光農園	127	8.1%
市が主催する農業に関するイベント	74	4.7%
農業者等が主催するイベント	64	4.1%
直売所・販売会	786	50.3%
農業体験などの農業に触れられる施設	32	2.0%
子どもに対する農作業体験や食育等のイベント	83	5.3%
ボランティア活動	30	1.9%
農業に関心はあるが関わる機会がない	373	23.9%
農業にあまり関心がない	186	11.9%
その他()※30字以内	25	1.6%

- Q16: 農畜産物を購入する際、主にどのような点を重視しますか。
【選択肢補足】
※9 食料の生産地から消費者の食卓に並ぶまでの輸送にかかる重さと距離で算出され、輸送に伴う環境負荷を示す。

(3つまで)(入力必須)	[n=1563]	
生産者に関する情報	264	16.9%
生産時の温室効果ガス削減の取組み	29	1.9%
フードマイレージ(※9)	40	2.6%
減農薬、有機栽培	353	22.6%
味	455	29.1%
鮮度	1,090	69.7%
産地	494	31.6%
量	162	10.4%
見た目	139	8.9%
価格	995	63.7%
その他()※30字以内	4	0.3%

- Q17: 食材を買う際や外食をする際に地産地消(※10)を意識していますか。
※10 地元で生産されたものを地元で消費すること

(1つだけ)(入力必須)	[n=1563]	
とても意識している	211	13.5%
やや意識している	873	55.9%
あまり意識していない	375	24.0%
まったく意識していない	104	6.7%

- Q18: 市では、未来に残したい、また未来のための持続可能な取組みをしている「食」に関する商品やサービスを「千葉市食のブランド『千(せん)』」(※11)に認定しています。
あなたは、「千葉市食のブランド『千』」を知っていましたか。また、知っていたが、購入したことがない方はその主な理由で選んでください。
※11 優れた地域産品であると同時に、社会課題の解決に取り組む生産者などがつくる市内農産品・加工食品・食関連サービスを、外部有識者が厳しい基準で審査し、千年後も豊かな千葉市を目指す食のブランドとして認定するもの。

(1つだけ)(入力必須)	[n=1563]	
知っていたし、商品を購入したことがある	392	25.1%
知っていたが、商品を購入したことはない(商品の購入場所がわからなかった)	249	15.9%
知っていたが、商品を購入したことはない(商品を購入する場所が近くにない)	166	10.6%
知っていたが、商品を購入したことはない(商品価格が高い)	128	8.2%
知っていたが、商品を購入したことはない(購入したい商品がない)	104	6.7%
知らなかった	524	33.5%

Q19: 以下の農産物は千葉県内で千葉市の生産量が多いものです。千葉市で生産される以下の農産物の中で買いたいものはどれですか。

(いくつでも)	[n=1563]	
ネギ	1,112	71.1%
ニンジン	943	60.3%
ホウレンソウ	830	53.1%
トマト	1,007	64.4%
イチゴ	899	57.5%
キャベツ	883	56.5%
スイカ	732	46.8%
サトイモ	520	33.3%
ダイコン	800	51.2%
ヤマノイモ(長芋、大和芋、いちょう芋、自然薯)	27	1.7%
レタス	747	47.8%
ハクサイ	672	43.0%
ナス	777	49.7%
キュウリ	872	55.8%
タマネギ	859	55.0%
ブロッコリー	820	52.5%
ピーマン	672	43.0%
メロン	519	33.2%

Q20: 現在、市では以下の事業にも力を入れています。この中で、更に力を入れるべきだと思う事業はどれですか。

【選択肢説明】

※12 ロボット技術やデジタル技術を活用し、農産物の栽培過程や収穫作業の省力化、品質管理を行う農業のこと。

※13 障害者や高齢者の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取り組み

(3つまで)(入力必須)

	[n=1563]	
農業の担い手(新規就農者等)の確保・育成	864	55.3%
スマート農業(※12)技術の普及・拡大	636	40.7%
環境に配慮した農畜産物の生産・流通	250	16.0%
有機・減農薬農畜産物の推進	192	12.3%
農畜産物の地域ブランド化の推進	226	14.5%
農畜産物や食に関する情報提供	114	7.3%
千葉市産の農畜産物を購入できるイベントの実施	420	26.9%
オンラインの直売所やネットスーパー等での農畜産物の購入機会の充実	186	11.9%
観光農園や市民農園を介した農業とのふれあい	105	6.7%
動物(イノシシ等)による農作物被害対策	257	16.4%
子どもに対する農作業体験や食育の推進	192	12.3%
若者に対する農業体験等の推進	155	9.9%
農福連携(※13)の推進	79	5.1%
1つもない	60	3.8%

Q21: 自宅の周辺に農地が残っているとしたら、その農地をどのように活用したいと思いますか。

(いくつでも)(入力必須)	[n=1563]	
農産物の生産	733	46.9%
市民農園	720	46.1%
観光農園	376	24.1%
子どもに対する農業体験	504	32.2%
生産者との交流	266	17.0%
就農者の育成	408	26.1%
農地以外(住宅地や商業地)の活用をしたほうが良い	84	5.4%
特になし	100	6.4%

- Q22: 最後に、認知症への理解及び認知症施策についてお聞きします。
認知症に関する経験として、あてはまるものを選択してください。

(いくつでも)(入力必須) [n=1563]		
家族、親戚の中に認知症の人がいる(いた)	662	42.4%
ご自身が認知症であると診断を受けた	11	0.7%
ご近所に認知症の人がいる(いた)	207	13.2%
ご近所で認知症と思われる人を見かけた	228	14.6%
医療・介護などの仕事を通じて認知症の人と接している(接したことがある)	183	11.7%
その他()※50字以内	19	1.2%
認知症の人と接した経験はない	536	34.3%

- Q23: 認知症サポーター(※14)について、あてはまるものを選択してください。
※14 認知症について正しい知識を身につけ、地域で認知症の人やその家族を温かく見守る理解者・応援者。養成講座を受講することで認知症サポーターになれる。

(1つだけ)(入力必須) [n=1563]		
認知症サポーターになっている	117	7.5%
認知症サポーターではないが、今後なりたい	239	15.3%
認知症サポーターではなく、今後も認知症サポーターになるつもりはない	400	25.6%
わからない	807	51.6%

- Q24: 本市の認知症施策において、知っているサービスを選択してください。

(いくつでも)(入力必須) [n=1563]		
相談窓口(あんしんケアセンター等)	880	56.3%
認知症相談コールセンター	170	10.9%
認知症疾患医療センター	72	4.6%
認知症初期集中支援チーム	45	2.9%
若年性認知症支援(相談窓口の設置、コーディネーターによる支援)	72	4.6%
もの忘れチェック事業	116	7.4%
認知症カフェ	301	19.3%
どこシル伝言板(認知症高齢者保護情報共有サービス)	85	5.4%
1つもない	561	35.9%

- Q25: 認知症の人や家族が地域で安心して暮らし続けるために、特に充実させる必要があると思うことは何ですか。

(3つまで)(入力必須) [n=1563]		
認知症の正しい知識や理解が地域に浸透すること	763	48.8%
認知症に関する相談窓口	638	40.8%
認知症の早期発見・早期対応につながるしくみ	743	47.5%
認知症に対応した介護施設や事業所の整備	579	37.0%
行方不明となった認知症の方を早期に発見するための体制	240	15.4%
認知症の人をサポートしてくれるボランティアの養成	229	14.7%
認知症の人の思いを広く発信できる環境	83	5.3%
認知症の人や家族など誰もが気軽に集い、交流できる場	248	15.9%
認知症の人が安心して外出するための支援や周囲の見守り	348	22.3%
事故等を起こした際に損害を補償する制度	145	9.3%
その他()※50字以内	17	1.1%
特になし	84	5.4%

- Q26: 財産管理や契約行為などにおいて、もしご自身で判断することが難しくなってきた場合、成年後見制度(※15)を利用したいと思いますか。

※15 認知症等によって物事を判断することが十分でない人に対して、家庭裁判所への申立てに基づき、家庭裁判所が成年後見人等(成年後見人、保佐人、補助人)を選ぶことで、法律的に支援する制度。成年後見人等には、配偶者や親族の他、弁護士や社会福祉士などの専門職が選ばれることもある。

(1つだけ)(入力必須) [n=1563]		
思う →Q27へ	336	21.5%
どちらかといえば思う →Q27へ	627	40.1%
どちらかといえば思わない →Q28へ	320	20.5%
思わない →Q28へ	280	17.9%

Q27: (Q26で「思う」「どちらかといえば思う」と回答した方)
誰に成年後見人等になってほしいですか。

[選択肢補足]

※16 成年後見人等としての活動を希望する市民が、千葉市成年後見支援センターの実施する養成講座(2年間)の受講後に登録。親族や専門職の場合と同様、家庭裁判所により選任される。

(1つだけ)(入力必須)

[n=963]

配偶者、親や子、兄弟姉妹などの親族	619	64.3%
弁護士、司法書士、社会福祉士などの専門職	167	17.3%
社会福祉法人などの法人	36	3.7%
友人・知人	9	0.9%
市民後見人(※16)	12	1.2%
適切に支援してくれるなら誰でもよい	82	8.5%
わからない	38	3.9%

Q28: (Q26で「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答した方)
制度を利用したいと思わない主な理由は何ですか。

(2つまで)(入力必須)

[n=600]

家族に任せられる	247	41.2%
制度がよく分からない	86	14.3%
必要性を感じない	36	6.0%
他人に財産や契約手続きを任せることが不安	135	22.5%
成年後見人等への報酬など金銭的負担	61	10.2%
家庭裁判所への申立てや書類の作成がわずらわしい	26	4.3%
その他()※50字以内	9	1.5%

その他

Q9: (Q8で「利用した」と回答した方)
路線バスを利用した主な目的・用途は何ですか。

【その他 主なもの】

・ 子どもの習い事送迎や学校行事のため(9件)
・ 家族・知人に会う行くため(8件)
・ 仕事(6件)
・ お見舞い(3件)
・ 雨の日の最寄駅迄の交通手段として(2件)
・ 最寄り駅までの交通手段(2件)

Q10: (Q8で「利用した」と回答した方)
路線バスを利用した頻度はどのくらいですか。

【不定期 ※天候の理由以外 主なもの】

・ マイカーが使えない時(5件)
・ 旅行に行く時(5件)
・ 徒歩では時間に間に合わないとき(2件)
・ 電車不通・遅延時(2件)
・ 疲れた時(2件)
・ 出張時(2件)
・ 体調が悪い時
・ 通院時

Q13: (Q8で「利用していない」と回答した方)
路線バスを利用しなかった理由について、あてはまるものを選択してください。

【その他 主なもの】

・ 電車や自転車などの、他の交通手段があるから(41件)
・ 健康のために歩く(9件)
・ バスが減便(又は廃止)になったから(3件)
・ 乗る必要がなかった(2件)

Q14: 路線バスの認知度向上や身近に感じてもらうためには、どのような取組みが効果的だと思いますか。あてはまるものを選択して下さい。

【その他 主なもの】

・ 路線や利用方法を分かりやすくする(23件)
・ 路線の拡充・運行サービスの充実(23件)
・ 運賃見直し・割引制度の導入(18件)
・ SNSでの情報発信や、イベント・キャンペーンの実施による認知向上(14件)
・ アプリやGPSを活用したデジタル化やリアルタイム情報の提供(11件)
・ 高齢者・障害者・子育て世帯が利用しやすい環境づくり(乗り方講習実施、ベビーカー置場設置など)(9件)
・ 運行品質・接客向上(6件)
・ バス停の環境整備(4件)

その他

Q15: 次に、次期千葉市農業基本計画についてお聞きます。
日常生活の中で、どのような場面で農業に関わる機会がありますか。

【その他 主なもの】

・ 親戚の農家の手伝い(5件)
・ 家庭菜園
・ ボランティア

Q16: 農畜産物を購入する際、主にどのような点を重視しますか。

【その他 主なもの】

・ コスパが良くて健康を害さないもの
・ 国産か外国産か

その他

Q22: 最後に、認知症への理解及び認知症施策についてお聞きます。
認知症に関する経験として、あてはまるものを選択してください。

【その他 主なもの】

・ 仕事・職場で認知症患者と接点があった(6件)
・ 友人・知人に認知症患者がいた(4件)
・ 認知症サポーター養成講座に参加した

Q25: 認知症の人や家族が地域で安心して暮らし続けるために、特に充実させる必要があると思うことは何ですか。

【その他 主なもの】

・ 家族への支援・相談体制(4件)
・ 医療・介護サービスの充実(4件)
・ 認知症予防の知識の啓発(3件)
・ セラピードッグの活用(認知症本人・家族・支援者への効果)
・ ロボットやAIの活用
・ 役所内での横の連携

Q28: (Q26で「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答した方)
制度を利用したいと思わない主な理由は何ですか。

【その他 主なもの】

・ 信頼できない(4件)
・ 希望した人が後見人になってもらえるわけではないこと
・ 縛りが強いことが問題になっている、と聞くので
・ 途中でやめられずに資産がどんどん減る